



2025年10月28日

各 位

上場会社名 株式会社アーレスティ
代表者 代表取締役社長 高橋 新一
(コード番号 5852 東証プライム)
問合せ先責任者 執行役員 管理本部副本部長兼
経営企画部長 清水 敦史
(TEL 03-6369-8664)

営業外費用及び法人税等調整額（益）の計上並びに
2026年3月期連結業績予想（中間期・通期）の修正に関するお知らせ

当社は、2026年3月期中間連結会計期間（2025年4月1日～2025年9月30日）において、下記の営業外費用及び法人税等調整額（益）を計上するとともに、最近の業績動向等を踏まえ、2025年5月16日付で公表しました2026年3月期連結業績予想（中間期・通期）を下記のとおり修正しましたのでお知らせいたします。

記

1. 営業外費用（為替差損）の計上

当中間連結会計期間において、為替相場の変動に伴い、営業外費用に為替差損4.5億円を計上いたします。これは主に、当社グループが保有する外貨建て債権・債務を当期末時点の為替相場で評価替えしたことにより発生したものであり、今後の為替相場の状況により変動する可能性があります。

2. 営業外費用（シンジケートローン手数料）の計上

2025年7月28日付で公表しました「シンジケートローン契約締結に関するお知らせ」のとおり、当社は2025年7月31日付でシンジケートローン契約を締結し、組成に伴う手数料が発生したことにより1.5億円を営業外費用に計上いたします。

3. 法人税等調整額（益）の計上

連結子会社であるアーレスティメヒカーナS.A. de C.V.は、IAS第12号（法人所得税）における繰延税金（税効果会計）の計算において、会計上の機能通貨（米ドル）と、税務基準額の計算に用いる現地通貨（メキシコペソ）が異なっていることから、非貨幣性資産及び負債の現地通貨建税務基準額（メキシコペソ）を機能通貨建金額（米ドル）に換算替えした金額（決算日レート）と会計上の簿価（取得日レート）との差額を一時差異として繰延税金資産及び負債を認識しております。

当中間連結会計期間においては、適用する為替相場（米ドル／メキシコペソ）がペソ高へ推移したことにより、法人税等調整額（益）4億円を計上（繰延税金資産の計上）いたします。なお、当該金額は今後の為替相場の状況により変動する可能性があります。

4. 業績予想の修正

(1) 2026年3月期第2四半期（中間期）連結業績予想数値の修正（2025年4月1日～2025年9月30日）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する中間純利益	1株当たり中間純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	82,100	1,900	1,600	1,800	72.36
今回発表予想(B)	82,100	1,800	1,000	2,000	80.64
増減額(B-A)	—	△100	△600	200	
増減率(%)	—	△5.3	△37.5	11.1	
(ご参考)前第2四半期実績 (2025年3月期中間期)	78,195	△253	△536	△2,696	△108.08

(2) 2026年3月期通期 連結業績予想数値の修正（2025年4月1日～2026年3月31日）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	161,200	3,600	3,100	2,300	92.45
今回発表予想(B)	162,200	3,600	2,200	2,300	92.74
増減額(B-A)	1,000	—	△900	—	
増減率(%)	0.6	—	△29.0	—	
(ご参考)前期実績 (2025年3月期通期)	162,929	3,371	3,044	△2,892	△116.26

(3) 修正の理由

当第2四半期(中間期)の売上高は、ダイカスト事業アジアにおいて、中国自動車市場における競争激化等により一部主要顧客の販売減少に伴い受注量が減少しましたが、ダイカスト事業日本においては、国内自動車生産の回復等に伴い受注量が増加しました。これら事業セグメントごとの変動を踏まえた結果、全体としては前回予想と同水準の売上高となる見通しです。

営業利益については、ダイカスト事業北米(米国工場)において、人件費等の製造コスト上昇影響により収益性が低下しましたが、ダイカスト事業日本においては、受注量の増加と生産体制の合理化により増益の見通しです。また、ダイカスト事業アジア(中国工場)においても受注量は減少したものの、生産体制の合理化や固定費の削減が奏功した結果、事業セグメントごとの変動はありますが、全体としては前回予想と同水準の営業利益となる見通しです。

経常利益は、為替差損4.5億円の計上等により前回予想を下回る見通しですが、親会社株主に帰属する中間純利益については、2025年7月31日付で公表した「連結子会社(孫会社)の異動(持分譲渡)完了及び特別利益の計上に関するお知らせ」のとおり、関係会社株式売却益11億円(前回予想には8億円織り込み済)の計上並びに上記の法人税等調整額(益)4億円の計上等により、前回予想と同水準となる見通しです。

また、通期連結業績予想につきましても、当第2四半期(中間期)までの業績及び為替動向並びに各事業セグメントにおける最新見通しを反映し修正いたします。

今回の業績予想の修正に伴う1株当たり配当予想(中間16円・期末16円の合計32円)の変更はありません。

(注) 本資料に記載されている業績見通し等は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

業績予想の補足資料

通期連結業績予想のセグメント情報

セグメント	売上高(百万円)			セグメント利益(百万円)		
	前回予想	今回予想	増減	前回予想	今回予想	増減
ダイカスト事業 日本	61,600	65,800	4,200	1,350	2,000	650
ダイカスト事業 北米	50,000	50,600	600	800	250	△550
ダイカスト事業 アジア	39,800	36,200	△3,600	950	800	△150
アルミニウム事業	7,000	6,600	△400	300	250	△50
完成品事業	2,800	3,000	200	200	250	50
セグメント間取引消去	—	—	—	—	50	50

為替レート的前提(第3四半期以降:150.0円/米ドル、21.0円/元、1.80円/インドルピー)

(前回予想:150.0円/米ドル、21.0円/元、1.80円/インドルピー)

以 上